

自然

エルサルバドルには、湿原、湖、ラグーン、マングローブ林、ビーチ、山といった豊かな自然があります。その中には、日本の協力を垣間見ることのできる場所もあります。

例えば、東部地域には、湿地保全に関するラムサール条約に登録されたオロメガ湖やエル・ホコタル湖といった美しい湖があります。しかしながら、これら湿地帯の自然環境は、様々な要因によって悪化し、適切な湿地管理の実施が緊急の課題となっていました。そのため、日本は、統合的な湿地管理のための技術協力を行っています（2016－2021年「オロメガ湖・ホコタル湖統合的湿地管理プロジェクト」）。



[エル・ホコタル湖での取材の様子 \(クリック\)](#)

また、日本は、東部地域の豊かな自然を生かした観光ツアーの開発に協力しています。インティプカ市エステロンビーチにおけるマングローブ林ツアーや、メアングーラ島といったフォンセカ湾の島々を巡るツアーに参加することができますが、これらツアーの開発には、日本も技術協力で貢献しています（2010年－2013年「東部地域観光開発能力強化プロジェクト」）。



インティプカ市エステロンビーチのマングローブ林



他にも、エルサルバドルには、サーフィンのメッカとも呼ばれるビーチが存在しています。一方、大地震等の災害に度々見舞われており、津波の脅威にも曝されています。そこで日本は、当国における地震・津波などの観測能力を強化し、適時適切な警報を発出することで人的被害の低減に貢献するために、地震計や潮位計などの観測機材の整備を行うべく無償資金協力を実施しました（2011年度広域防災システム整備計画）。



ラ・リベルタ港の栈橋。活気ある魚市場が営まれ、その先端部には日本の無償資金協力「広域防災システム整備計画」の記念碑がある。

同様に、エルサルバドルでは山々が豊かな景観を形成していますが、大地震の際などには、岩盤崩落等の危険性が存在しています。日本は、通称**GENSAI**と呼ばれる技術協力（公共インフラ強化のための気候変動・リスク管理戦略局支援プロジェクト）や見返り資金協力を通じて、主要幹線道路に岩盤崩落防止柵を設置するなど、道路防災に貢献してきました。その他にも、日本が多くの知見を有する防災分野においては、これまで、**TAISHIN**（耐震普及住宅の建築普及技術改善プロジェクト）、**BOSAI**（中米広域防災能力向上プロジェクト）といった、様々な技術協力が実施されています（[クリック](#)）。